

## タミフル非使用例の「異常な行動」等について(その3)(平成19年4月18日～4月27日までに入手できたもの)

No.	報告日	性別	年歳代	1日用量	併用薬	副作用	経過の概要	備考
1	20070419	男	10歳未満		なし	異常行動	受診時37.7℃。アジスロマイシン水和物など処方し、リン酸オセルタミビル処方せず。夜(就寝約1時間半後)、突然泣き叫び、しゃくとり虫みたいに身体を動かし、約30分、抱いていたとのこと。その後寝入る。その約30分後、再び泣き叫び15分くらいで落ち着き寝入る。深夜、叫び声あげるもまもなく寝入り朝まで問題なし。翌日朝、38.1℃のため再受診。B型インフルエンザと診断し、リン酸オセルタミビル投与。その後、異常行動なし。	医療機関からの報告
2	20070424	男	10歳代			異常行動	部屋の中を走り回る。本人の記憶あり。その後、インフルエンザ感染症と診断し、リン酸オセルタミビル処方するも、処方後に異常行動の発現はなかった。	医療機関からの報告
3	20070424	女	10歳代			異常行動	クローゼットに放尿。本人の記憶無し。その後、インフルエンザ感染症と診断し、リン酸オセルタミビル処方するも、処方後に異常行動の発現はなかった。	医療機関からの報告
4	20070427	女	10歳代		リン酸コデイン セフトレンピボキシル アセトアミノフェン 塩化ナトリウム、塩化カリウム、 乳酸ナトリウム、ブドウ糖	意識障害 幻覚	咽頭痛出現。 翌日受診時39.1℃。意識清明、項部硬直なし。インフルエンザAと判明。リン酸オセルタミビルは投与せず。同日夜、体温40℃あり、意識障害と幻覚が出現したがしばらくしておさまった。	医療機関からの報告